

太宰府の文化財

419

新追加指定の文化財―山岳寺院「原山」―

山岳寺院「原山」は、四王寺山の南東麓、現在の連歌屋・三条地区の一帯に建立された山岳寺院です。古代の山城である大野城内に建立された四王院(寺)の別院として、9世紀代に天台宗の円珍の弟子が開いたと伝えられています。また、菅原道真の葬

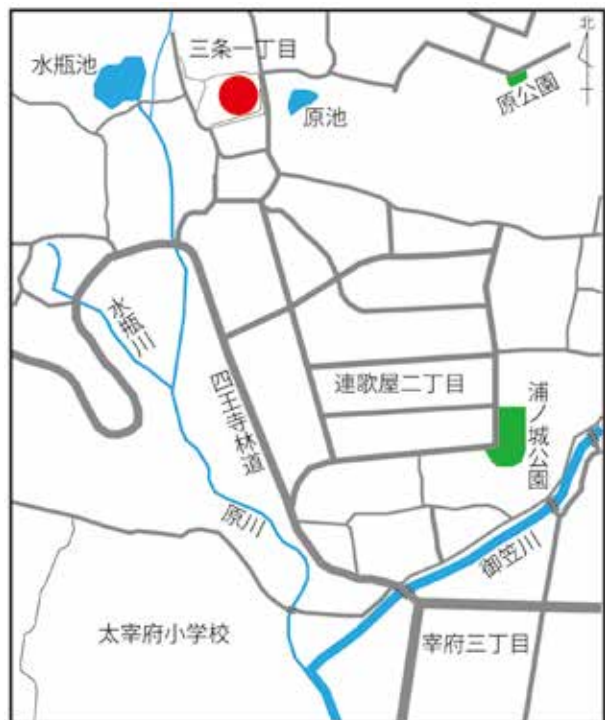
儀がおこなわれたという伝承が残されるほか、時宗を開いた一帯が幼少期に修行を行ったことや、室町幕府を開いた足利尊氏が「原山」に一時的に滞在したことなどの記録が残っています。現在でも連歌屋・三条地区の一帯には「原山」

に関係する「本堂跡」、「中堂跡」などの石碑や「原山」の僧侶の末裔によって建てられた「原山記念碑」を見ることがができます。

近年、「原山」が所在する原遺跡では28箇所を発掘調査が行われ、堂舎と考えられる建物跡や宗教関連の遺物が多く確認されました。中でも平成27年度と平成29・30年度に実施した「原山」の本堂伝承地の調査では大型の建物跡や道の跡など重要な遺構などが確認されました。

この度、「原山」が「特別史跡大野城跡」の指定理由に記載されている四王院(寺)と強いつながりを持ち、これまでの調査成果が史跡の歴史を明らかにする上でも重要であると判断され、「原山」の中心的施設が確認された本堂伝承地が令和元年10月16日に「特別史跡大野城跡」として追加指定されました。

文化財課 沖田正大



「原山」本堂伝承地位置図 ※●が本堂伝承地



山岳寺院「原山」イメージ図



本堂伝承地での現場説明会風景